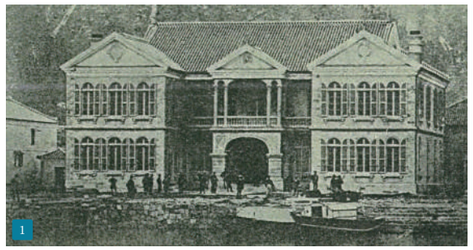
神戸税関

時計塔と共に、新たな時代へ

慶応３（1868）年の兵庫開港に伴い開設された「兵庫運上所」を前身とする神戸税関は、伊藤博文（後の初代内閣総理大臣）が第３代長官を務め、昭和４（1929）年には天皇陛下が行幸なされる（写真⑫）等、我が国でも歴史と伝統ある機関の一つです。時計塔のある本関庁舎（写真②及び⑥）は、神戸空襲や阪神・淡路大震災（写真④）の苦難を乗り越えて、神戸港のシンボルとして市民から長く親しまれています。現在、９つの県、7,100km にわたる海岸線及び 28 の開港を管轄し、31 の官署で業務を行っています。なお、これらの数字は、いずれも全国の税関の中でも最大又は最長とされています。神戸税関管内における令和３（2021）年の輸出貿易額は 10 兆 7,172 億円（全国比 12.9％）、輸入貿易額は９兆 2,488 億円（全国比 10.9％）です。



1 初代庁舎　2 ２代目庁舎　3 占領軍が描いた壁画(旧館４階)　4 震災復旧工事　5 監視艇おき　6 ３代目庁舎(現在)　7 元貴賓室(旧税関長室)　8 旧館エントランス(時計塔下)　9 神戸港(昼景)　10 神戸港(夜景)　11 カスタム君、カスタムちゃん　12 昭和天皇行幸記念碑

神戸税関のあゆみ

幕末から明治にかけて

- 慶応３年 12 月７日（1868 年１月１日）、兵庫（神戸）港が開港し、神戸税関の前身となる「兵庫運上所」が開設されました。
- 「兵庫運上所」は、慶応４年１月３日（1868 年）に幕府軍が鳥羽伏見の戦いに敗れたため、わずか１か月余りで事実上の閉鎖状態となりましたが、慶応４年２月５日（1868 年）に新政府によって改めて「神戸運上所」として開設されました。
- 明治５年 11 月 28 日（1872 年）、「運上所」から「税関」に呼称を統一することが決定されました。
- 明治６（1873）年１月４日、「神戸運上所」は「神戸税関」と改称されました。
- 同年 12 月、初代本関庁舎が竣工しました。（写真①）

昭和の時代

- 昭和２（1927）年３月、二代目本関庁舎が竣工しました。（写真②、⑦、⑧）
- 昭和 20（1945）年９月に占領軍により二代目本関庁舎が接収されましたが、昭和 25（1950）年４月に接収が解除されました。（写真③）
- 昭和 42（1967）年３月、我が国初のコンテナターミナルを有する摩耶埠頭が竣工し、同年９月 19 日にコンテナ第１船（ハワイアン・プランター号）が摩耶埠頭に入港しました。
- 昭和 56（1981）年３月にポートアイランドが、平成４（1992）年９月に六甲アイランドが、それぞれ竣工しました。

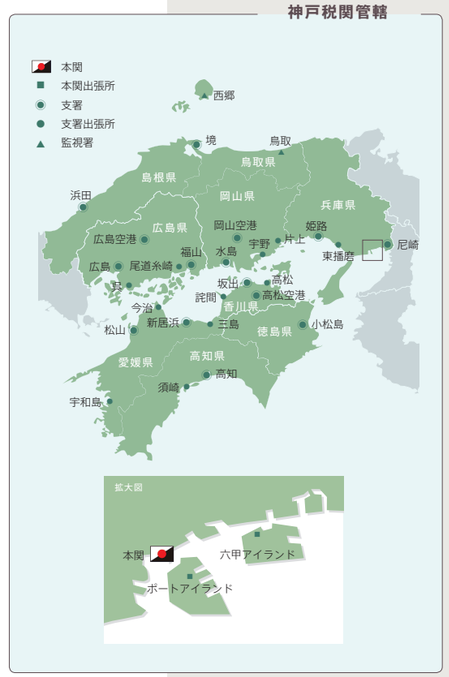
平成から令和へ

- 平成７（1995）年１月 17 日、阪神･淡路大震災により二代目本関庁舎が被災しました。（写真④）
- 平成 11（1999）年３月、三代目本関庁舎が竣工しました。（写真⑥）
- 平成 19（2007）年、神戸港、尼崎西宮芦屋港及び大阪港が同一開港化され、「阪神港」となりました。
- 平成 29（2017）年１月１日、神戸開港から 150 年目を迎えました。（写真⑨、⑩）
- 令和４（2022）年 11 月 28 日、税関発足から 150 周年を迎えます。

――「神戸税関庁舎」について

現在の神戸税関庁舎は、三代目庁舎となります。みなと神戸のランドマークとして長年親しまれてきた先代の庁舎は阪神・淡路大震災の影響を受けましたが、市民からの「時計塔のある外観を残してほしい」との強い要望を踏まえて、同庁舎を保全しつつ、船をイメージした神戸港の新しい復興のシンボルとして三代目庁舎は生まれ変わりました。同庁舎は、近代化産業遺産の認定等の賞を受賞したほか、映画「スパイの妻」や連続テレビ小説「まんぷく」など数多くの作品のロケ地としても活用されています。（写真④、⑥、⑪）

神戸税関管轄



神戸税関の管轄

神戸税関の管轄区域は、兵庫県、中国地方（山口県を除く）４県、四国４県の計９県の広範囲に及び、全国の税関の中で最も長い海岸線（約7,100km）を有しています。

管内には28の外国貿易港（開港）と5つの国際空港（税関空港）があり、本関のほかに15支署、13出張所及び２監視署が置かれ、約1,000名の職員が輸出入貨物の通関や密輸の取締り等に当たっています。（写真⑤）

（令和４（2022）年４月現在）